ポストコロナ時代の都市圏づくりの方向性に関する調査研究 【広島広域都市圏】

2023年6月

一般社団法人中国経済連合会 公益財団法人中国地域創造研究センター 中国電力株式会社

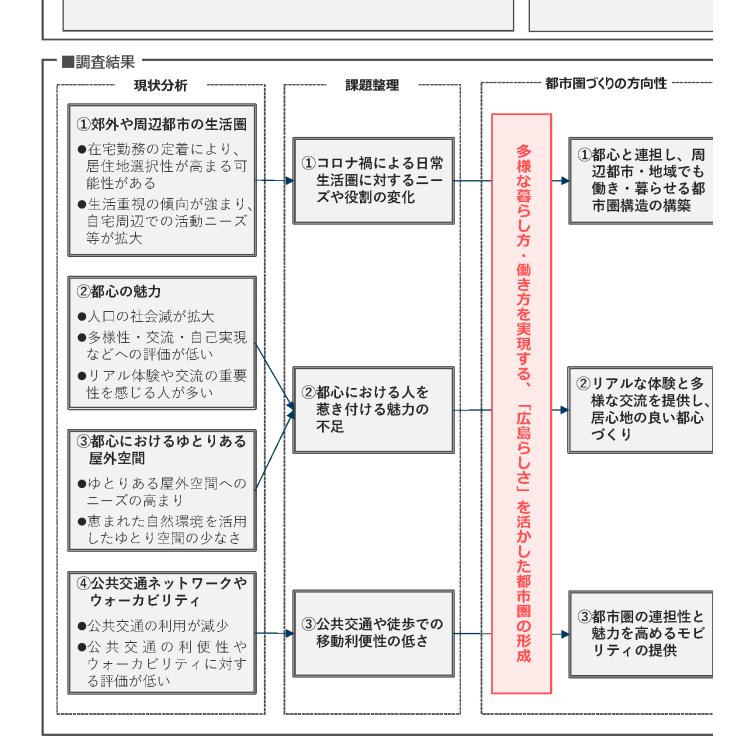
■調査の概要

(1)調査の目的

- 少子化・高齢化や人口減少が進行する中国地域において地方創生を強力に推進するためには、人口ダム効果が期待できる拠点都市を中心とした都市圏における取組が重要。
- ポストコロナ時代にふさわしい都市圏形成について、圏域の地域特性を踏まえた発展の方向性と具体的な取組を検討。

(2)対象圏域

- 広島広域都市圏(広島社
- ※広島市の都心部からおま ある、東は三原市エリア 市エリアまでの28市町で



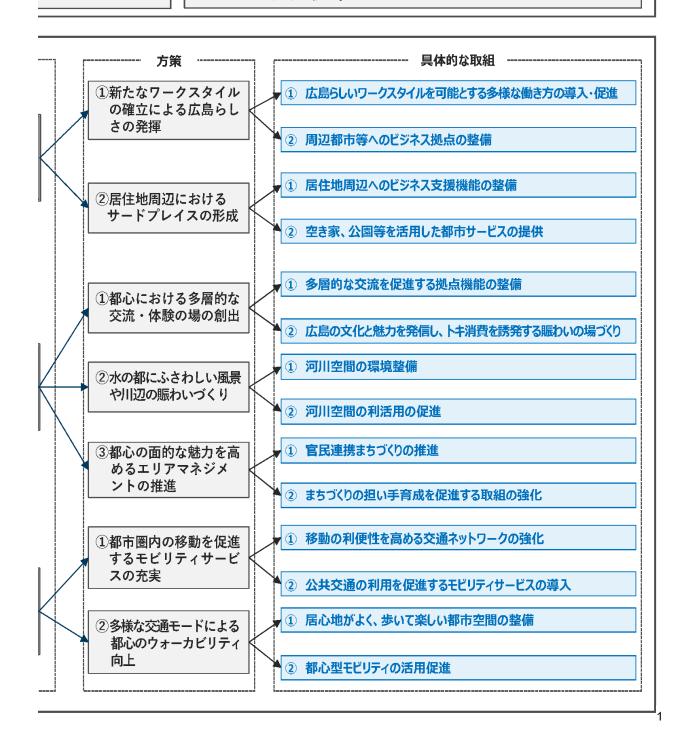
りに関する調査研究/概要版

都市圏)

5むね60kmの圏内に 7から西は山口県柳井 ご構成される都市圏

(3)調査の視点

- 人口減少やコロナ禍によるライフスタイル等の変化などを踏まえ、都市圏の機能分担のあり方や拠点都市の機能強化のあり方など、広島都市圏の今後の方向性を検討。
- 時代の潮流を踏まえた長期的な視点から、広島都市圏の特性を踏まえた、広島らしさを活かした方策を検討。
- 「第2期広島広域都市圏発展ビジョン」を踏まえ、ポストコロナ時代 における方策を提示。



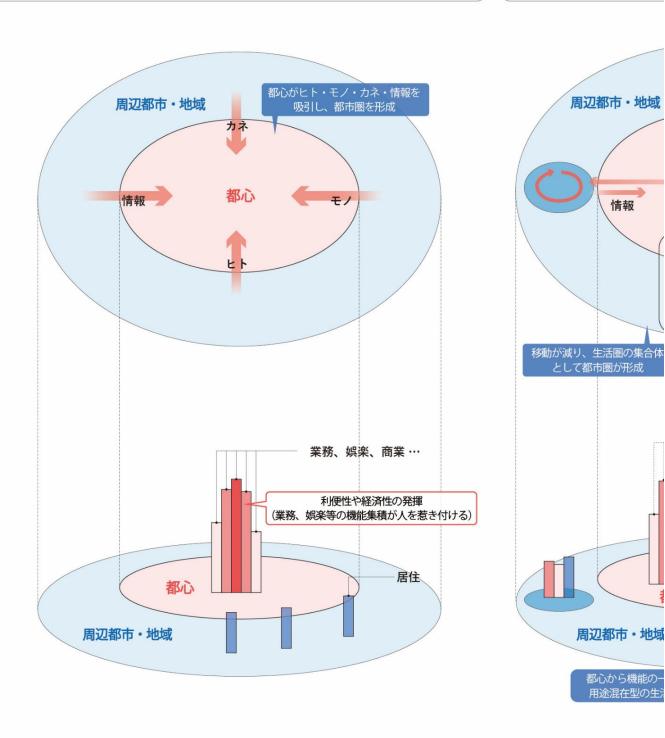
■都市圏づくりの方向性イメージ

【これまでの都市圏】

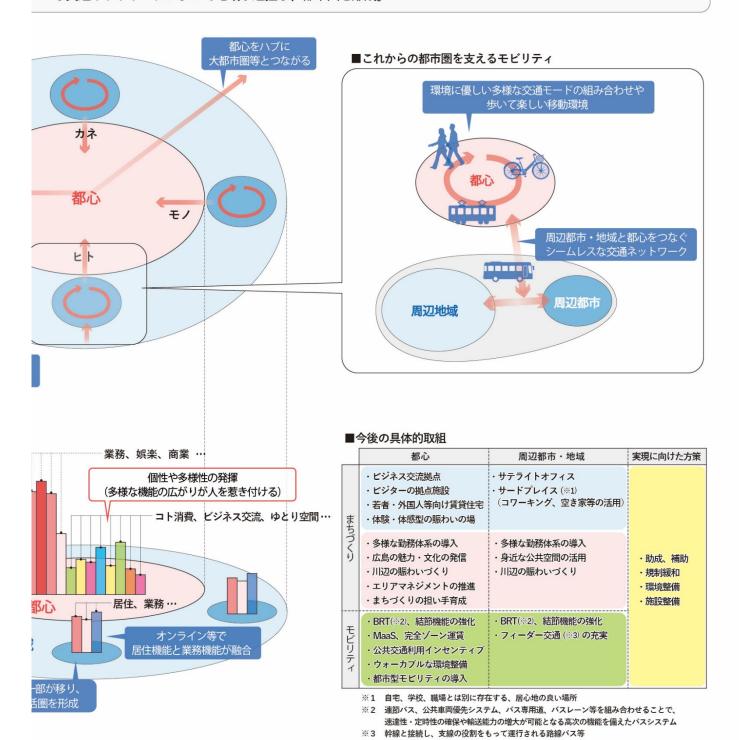
- ① 周辺都市・地域等は主に居住機能を担う。
- ② 都心は、主に業務・娯楽等の機能を担い、利便性や経済性で人を惹き付ける。
- ⇒ ヒト・モノ・カネ・情報が、周辺都市・地域等から都心へ集まり、都市圏を形成。

【これからの都市圏】

- ① 周辺都市・地域等は、
- ② 都心は、利便性や経済
- ⇒ オンラインやシーム



・オンライン等の活用により、働く場と暮らす場が融合した生活圏を形成。 斉性に加え、リアルな体験・交流機会等の提供により、個性や多様性で人を惹き付ける。 レスな交通ネットワークによって地域が連担し、都市圏を形成。



目 次

1.	調査の概要 ······ 1
(1))調査の目的
(2)) 対象圏域
) 調査の視点 2
(4)) 調査の体制
2.	既存計画「広島広域都市圏発展ビジョン」
3.	調査の方法
(1)) 既存資料調査4
(2)) アンケート調査4
(3)) ヒアリング調査
4.	現状と課題
)現状分析 ······· 6
)課題整理 ············· 17
_	
5.	今後の都市圏づくりの方向性 ······ 19
6.	方策と具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(1))都心と連担し、周辺都市・地域でも働き・暮らせる都市圏構造の構築 24
(2))リアルな体験と多様な交流を提供し、居心地の良い都心づくり 27
)

1. 調査の概要

(1)調査の目的

新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大は、テレワークやデジタル化の進展など経済・ 社会全体のあり方や人々の行動様式・意識に対して大きな影響を与えている。

国土交通省においては、2020年に公表した「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」において、コンパクト・プラス・ネットワークの推進等に取り組んでいく大きな方向性に変わりはないとする一方で、都市の持つ集積メリットを活かしつつ、新型コロナ危機を契機に生じた変化に対応していく必要があるとしており、ポストコロナの時代を見据えた新しい都市機能のあり方が求められている。

また、2022年に公表された新たな国土形成計画(全国計画)中間とりまとめでは、コロナ禍による生活・経済の変化やデジタル化の進展などを踏まえた、令和の新しい国土づくりの方向性が示されており、「シームレスな拠点連結型国土」の形成に向けた重点テーマとして、「デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成」が掲げられている。

こうした中、少子化・高齢化や人口減少など深刻な社会課題が全国に先駆けて進行する中国 地域において地方創生を強力に推進するためには、人口ダム効果が期待できる拠点都市を中心 とした都市圏における取組が重要であり、こうした社会環境の変化や国の動向を踏まえた、ポ ストコロナ時代にふさわしい都市圏形成について検討が必要と考えられる。

ついては、今後の中国地域において活性化を主導すると考えられる主要都市圏を選定し、圏域の地域特性を踏まえた発展の方向性と具体的な取組について検討する。

(2)対象圏域

広島広域都市圏**(以下、「広島都市圏」)を対象とする。

※広島市の都心部からおおむね 60km の圏内 にある、東は三原市エリアから西は山口県柳 井市エリアまでの 28 市町で構成される都市 圏



図 1 圏域を構成する市町 (資料) 広島市ホームページ

(3)調査の視点

人口減少やコロナ禍を通じたライフスタイル等の変化などの社会構造の変化を踏まえ、都市 圏における機能分担のあり方や都心における都市づくりのあり方など、広島都市圏の今後の方 向性を検討する。

検討に当たっては、時代の潮流を踏まえた長期的な視点から、広島都市圏の特性を踏まえた、 広島らしさを活かした方策を検討する。

また、広島広域都市圏の将来像や施策を取りまとめた既存計画である「第2期広島広域都市 圏発展ビジョン |を踏まえ、同ビジョンで掲げられた理念を具体化するための方策を提示する。

(4)調査の体制

調査の体制は下図のとおりであり、事務局において調査・分析、取りまとめを行い、各分野の有識者で構成される検討委員会において有識者からの意見聴取等を行った。

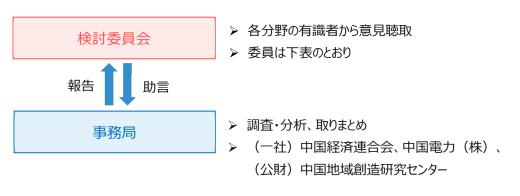


図 2 調査の体制

表 1 検討委員会委員

専門分野	氏 名	所 属	
地域政策	戸田 常一 (委員長)	安田女子大学現代ビジネス学部教授	
交通・インフラ	神田佑亮	呉工業高等専門学校 教授	
都市政策•環境	田中貴宏	広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授	
地域・人づくり	木原 一郎	広島修道大学国際コミュニティ学部 准教授	

2. 既存計画「広島広域都市圏発展ビジョン」

広島広域都市圏の中心都市である広島市においては、2022年3月改訂の「第2期広島広域都市圏発展ビジョン」を策定し、「200万人広島都市圏構想*」に基づく広島広域都市圏の目指す将来像や、その実現に向けて取り組む施策などを取りまとめている。

※広島広域都市圏の人口は、1995 年の約 251 万人をピークに減少しており、2050 年には 200 万人を割り、それ以降も減少すると見込まれている。また、高齢化率も上昇し、住民の 3 人に 1 人が 65 歳以上になるとも推計されている。こうした人口減少、少子化・高齢化など 社会経済情勢の急速な変化に対応するため、経済面や生活面で深く結び付いている広島広域都市圏の 28 市町が連携しながら、ヒト・モノ・カネ・情報が循環する「ローカル経済圏」 を構築し、地域資源を圏域全体で活用する様々な施策を展開することで、<u>圏域経済の活性化と圏域内人口 200 万人超の維持</u>を目指す「200 万人広島都市圏構想」の実現を図ることとしている。

① 取組の期間と推進体制

2021 年度から 2025 年度までの 5 年間を取組の期間とし、広島広域都市圏の構成市町と協議・調整を行い、圏域の総力を挙げて実施することとしている。

② 広島広域都市圏の目指す将来像

誰もが"住み続けたい""住んでみたい"広島広域都市圏



《経済面》

ヒト・モノ・カネ・情報が 巡る都市圏

(圏域全体の経済成長をけん引する)

どこに住んでも安心で

(高次の都市機能を集積・強化する)

暮らしやすい都市圏

《行政面》

住民の満足度が高い行政 サービスを展開できる都市圏

(圏域全体の生活関連機能 サービスを向上させる)

3. 調査の方法

(1) 既存資料調査

ポストコロナを見据えた今後の都市機能の方向性等について、既存文献をもとに把握・整理 した。また、広島都市圏における人口等の現状や暮らしやすさの客観指標について、統計資料 をもとに把握・整理した。

調査に当たっては、広島都市圏の特性を明らかにするため、地方ブロックの類似都市である福岡都市圏(福岡市と近隣の16市町で構成される都市圏)及び福岡市との比較を行った。

(2) アンケート調査

事業所や住民に対し、暮らし方や働き方に関する実態・意識等を尋ねるアンケート調査を実施した。

また、住民意識調査については、既存資料調査と同様に、福岡都市圏及び福岡市との比較を 行った。

調査概要は以下のとおり。

表 2 アンケート調査の概要

	調査期間	2022年8月
	調査対象	広島都市圏に立地する事業所
	調査方法	郵送による配布・回収
事業所調査	配布・回収件数	配布数: 1,000 件 回収数: 218 件(回収率: 21.8%)
	調査項目	①就業・雇用環境の変化について ②事業所の立地環境について ③人材の確保や育成について
	調査期間	2022年8月
	調査対象	広島都市圏及び福岡都市圏の 20~40 代の方
住民意識調査	調査方法	インターネット調査
正以忠國明日	調査件数	2,000 人(広島都市圏、福岡都市圏各 1,000 人)
	調査項目	①コロナ禍による行動や意識の変化について ②都心での体験、都市イメージなどについて

(3) ヒアリング調査

現状・課題の把握、参考事例収集のため、都市サービスの提供事業者等(開発事業者、交通 事業者、まちづくり団体)を対象としたヒアリング調査を実施した。

調査概要は以下のとおり。

表 3 ヒアリング調査の概要

21 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -				
調査時期		2022年12月~2023年1月		
	開発事業者	・NTT 都市開発(株): 旧広島市民球場跡地等事業、中央公園 広場エリア等整備・管理運営事業 等 ・野村不動産(株): 本通地区再開発事業 等 ・大成建設(株): 八丁堀地区再開発事業 等		
調査対象	交通事業者	•広島電鉄㈱		
	まちづくり団体	・カミハチキテル:紙屋町・八丁堀における社会実験の実施等・広島都心会議:広島都心エリアのまちづくりの調整・支援等・RIVER DO! 基町川辺コンソーシアム:基町護岸を活用したイベントの実施等		
調査項目	今後の都市圏・ 都心に必要なこと	・広島都市圏や広島市都心部の特徴(強み、弱み) ・広島都市圏や広島市都心部にあると良いと思う機能やサービス ・周辺都市や郊外と都心との関係のあり方 など		
	都市圏・都心での 取組や事業	・取組や事業の目的、ねらい ・取組や事業を進める上での課題 など		

4. 現状と課題

(1) 現状分析

各調査結果より現状分析を取りまとめると、以下のように整理できる。 (調査結果の詳細は資料編を参照)

① 郊外や周辺都市の生活圏

- コロナ禍により広島都市圏においても在宅勤務が広まっている。事業所においても、主に働き方改革の一環としてテレワークが実施されていることから、今後も一定程度定着することが考えられる。
- テレワークのメリットとして、通勤時間やワークライフバランスの改善に加え、居住地に 左右されず仕事ができることも指摘されており、在宅勤務を含むテレワークの定着が、居 住地選択性の向上につながる可能性がある。
- 仕事よりも生活を重視する傾向が強まるとともに、自宅周辺での活動や活動ニーズが増え、 都心だけでなく自宅周辺にも多様な都市空間やサービスが求められている。

【既存資料調査(抜粋)】

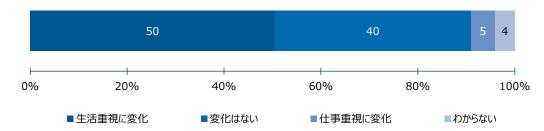
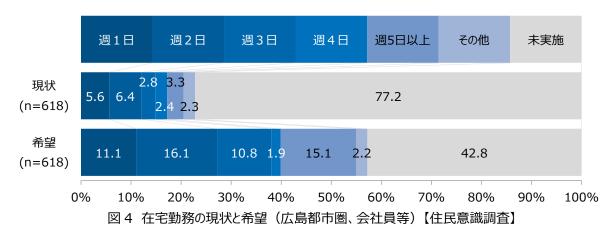


図3 コロナ拡大前に比べた仕事と生活に関する意識の変化

(資料) 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査(内閣府、2020年6月)

【アンケート調査結果(抜粋)】



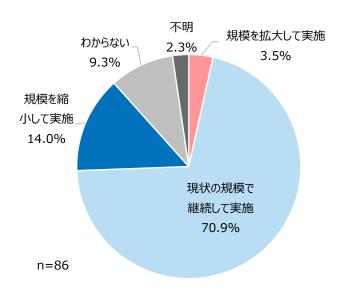
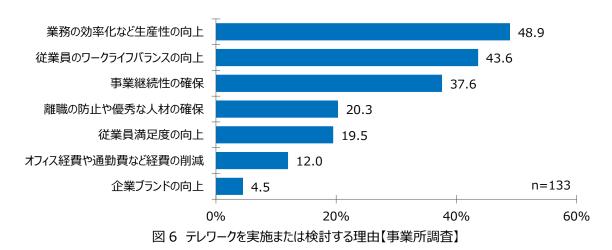


図5 今後のテレワークの実施予定【事業所調査】



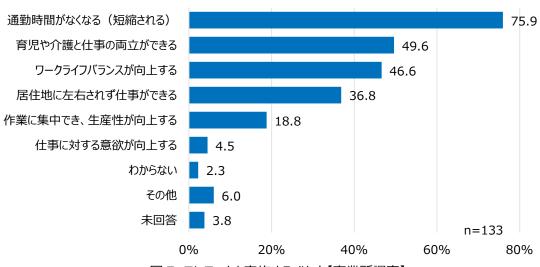


図7 テレワークを実施するメリット【事業所調査】

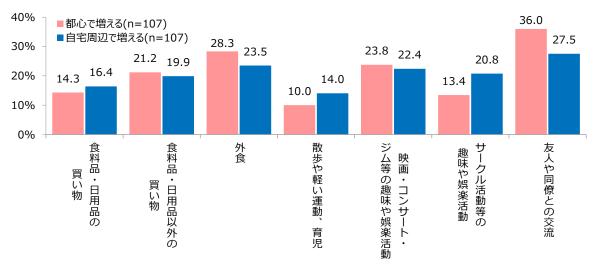


図8 コロナ収束後に増えると思う日常活動(広島都市圏、在宅勤務をしている人)【住民意識調査】

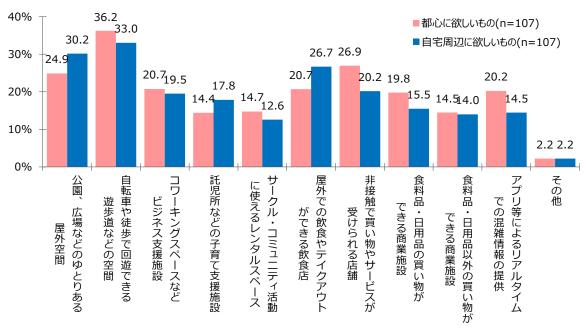


図 9 欲しいと思う都市空間・サービス(広島都市圏、在宅勤務をしている人)【住民意識調査】

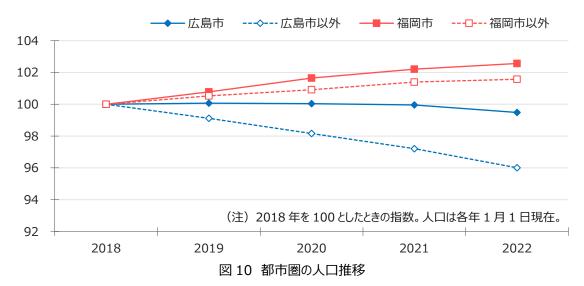
【ヒアリング調査結果(要約・抜粋)】

- ✓ 在宅勤務は今後も増えると思う。家で仕事をしたくない人がリモートワークする機会も増えるかもしれない。 (まちづくり団体)
- ✓ リモートワークと会って働くことを両立する時代になっており、出勤時間の縛りがなくなれば、半分リモート、半 分出社のような働き方が増えるのではないか。 (開発事業者)
- ✓ 全国的なトレンドであるオープンスペースを活かし、外に出て仕事をするなどワークスタイルの変化が必要だが、働く側がついていけない。企業側から言ってくれると良い。(開発事業者)
- ✓ 都心が東京とのハブとなることで周辺都市でも東京とつながる働き方ができる。周辺都市にも拠点があれば働きやすい。 (まちづくり団体、開発事業者)

② 都心の魅力

- 広島都市圏は人口減少傾向が見られ、中心都市である広島市でも近年は社会減に転じている。福岡市と比べ、若い世代の転入超過数の差が顕著であり、人口のダム効果が十分に発揮されていない状況にある。
- 広島都市圏における都心に対する満足度は、福岡都市圏に比べ低く、特に、刺激や多様性、 交流、自己実現などの評価が低い。一方で、広島都市圏には心地よさや景観・自然、プロ スポーツなどの強みがあり、利便性や安全性なども比較的評価されている。
- 都市活動のオンライン化が進む中にあって、リアルな体験や交流の重要性を感じている人も多く、都心にはオンラインでは代替しがたいリアルな体験や交流ができる場が求められている。

【既存資料調査(抜粋)】



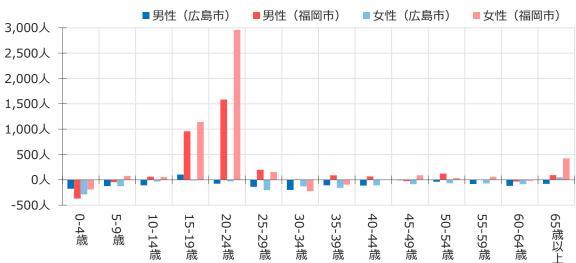
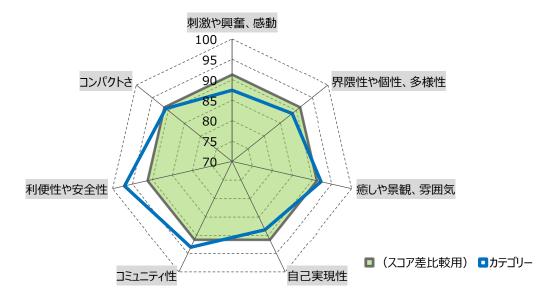


図 11 年齢階級別転入超過数(2022年、広島市・福岡市)

(資料) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(総務省、2022年)

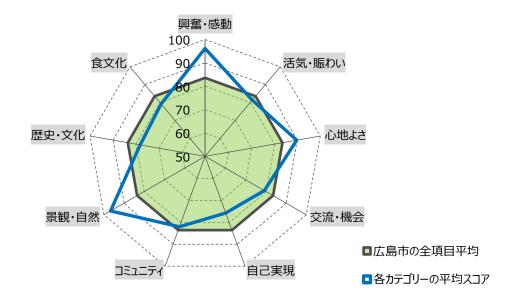
【アンケート調査結果(抜粋)】



カテゴリー	項目	スコア
	知的刺激や新しい情報にあふれている	85.3
刺激や興奮、感動	文化やトレンドを国内外に発信している	91.5
	興奮、感動する体験ができる	85.5
	面白いことや革新的なことに取り組む人が多くいる	87.2
田畑性や畑州 夕祥州	様々な業種やバックグラウンドの人が混在している	88.0
界隈性や個性、多様性 	外国人がたくさん住んでいる	89.2
	LGBTQ(性的マイノリティ)が暮らしやすい	90.9
	入り組んだ小さな路地や横丁が多くある	96.0
底(水 見知 雨岡左	雰囲気の良い建物や場所が多い	86.9
癒しや景観、雰囲気 	街並みや景観がきれい	90.7
	憩いや癒しを感じることができる	95.7
力力安理性	自分に合った仕事を見つけやすい	89.8
自己実現性	キャリアアップにつながるセミナーなどの機会がある	87.3
7~ W4	外から訪れた人に親切な人が多い	92.5
コミュニティ性 	まちに愛着を持った人が多い	94.1
	夜ひとり歩きをしても心配はない	104.5
利便性や安全性	日常の買い物に不便がない	93.5
	病院や医療機関が充実している	93.0
コンパクレナ	車がなくても生活に不便はない	85.6
コンパクトさ	自転車での移動が快適	95.9

図 12 都心のイメージ (広島都市圏、福岡市に対する相対評価) 【住民意識調査】

(注) スコアは、各設問の回答について、とてもそう思う=4点、ややそう思う=3点、あまり思わない=2点、思わない=1点により計算し、福岡=100としたときの指数として表示。



カテゴリー	項目	スコア
興奮·感動	プロスポーツや音楽ライブに興奮、感動した	96.2
	路上でパフォーマンスしている人を見た	70.0
活気・賑わい	商店街や飲食店から美味しそうな匂いがした	94.4
	夜間にひとりで街を歩いた	79.9
	寄り道をしていつもは歩かない道を歩いた	94.3
心地よさ	カフェなどでひとりの時間を過ごした	87.3
	木陰で心地よい風を感じた	87.7
	面白い人達が集まるイベントに参加した	83.0
交流・機会	様々な業種の人と仕事を離れて交流した	75.6
	趣味や気の合う仲間と交流した	79.2
6 7 Ф 18	ためになるセミナーや市民講座に参加した	78.7
自己実現	友人や知人に仕事を紹介された、紹介した	72.9
¬~,	馴染みの店で店主や常連客と盛り上がった	72.0
コミュニティ	買い物中に店の人との会話を楽しんだ	92.1
見知 点絲	ゴミの散乱や放置自転車を見た	106.7
景観·自然	公園や水辺で緑や水に直接触れた	86.8
医中 文化	神社やお寺に参拝した	79.5
歴史·文化	美術館や博物館で鑑賞した	77.0
<u> </u>	庶民的な店でうまい料理やお酒を楽しんだ	83.5
食文化	ミシュランや食ベログで評判の店で食事した	75.1

図 13 都心での経験・体験の有無(広島都市圏、福岡市に対する相対評価)【住民意識調査】

(注) スコアは、各設問の回答について、頻繁にある=5 点、たまにある=3 点、 $1\sim2$ 回はある=1 点、ほとんどない=0点により計算し、福岡=100としたときの指数として表示。

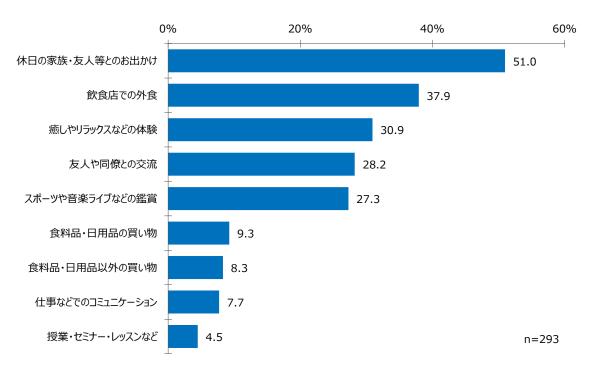


図 14 オンラインでは代替できないリアル活動(広島都市圏、テレワーク経験者)【住民意識調査】

【ヒアリング調査結果(要約・抜粋)】

- ✓ 広島と福岡ではシビックプライドや意識の差もあると思う。(まちづくり団体)
- ✓ 歴史文化など魅力はたくさんあるのにアピールできていない。魅力をつなぎ、回遊するための拠点が欲しい。 (まちづくり団体・開発事業者)
- ✓ 自己実現や交流機会は少ないと感じる。コワーキングが乱立しているが、使いこなせていない。プレイヤーの 育成が課題。(まちづくり団体)
- ✓ 担い手を育成する場や様々なセクターが交わってまちを考える場が広島は少ない。そこを市が包括的に支援してほしい。(まちづくり団体)
- ✓ 都心の弱みは人口が伸びていないこと。住んでいる人がいないと商業やエンタメなどの機能が発達しない。 (開発事業者)
- ✓ 賃貸住宅の供給やそのための規制緩和があると良い。都心居住が増えれば消費も増えて活性化につながる。 (まちづくり団体・開発事業者)
- ✓ 福岡に比べ観光資源が多いのにそれを活かせず、人を集められていない。周辺都市にも面白い資源があるが、広島からのアクセスが悪く、活かしきれていない。 (開発事業者)

③ 都心におけるゆとりある屋外空間

- 新しい生活様式の定着により、ゆとりある屋外空間のニーズが高まり、都心を訪れる人や 都心で働く人にとっても居心地のよさが求められている。
- 広島都市圏では、都心における「ゆとり・癒し」に対する評価が他の要素ほど福岡都市圏と比べて低くなく、この点を伸ばすことが、広島都市圏の特徴の創出につながる可能性がある。
- 都市空間として、緑道や水辺などの自然環境に恵まれる一方で、水辺を楽しめる公園や多様な使い方ができる広場、気軽に休憩できる空間など、こうした自然環境を活用するゆとり空間が少ない。

【アンケート調査結果(抜粋)】

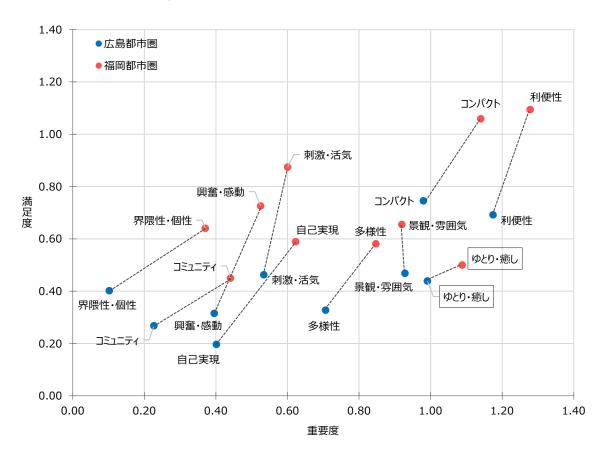


図 15 都心の要素に対する重要度・満足度【住民意識調査】

(注) 重要度・満足度は、各設問の回答について、とても満足・重要=2 点、やや満足・重要=1 点、あまり満足・重要でない=-1点、満足・重要でない=-2点により計算。 (満足度は各要素を重要と思う人の満足度)

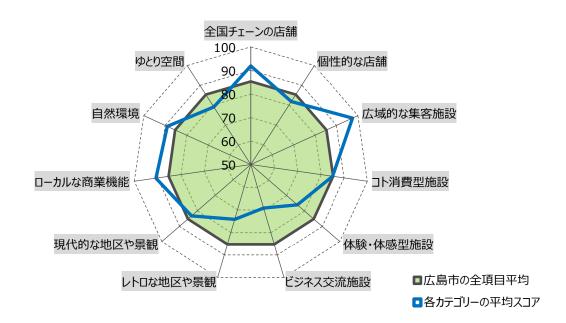


図 16 都心にある場所の認知(広島都市圏、福岡市に対する相対評価)【住民意識調査】

(注) スコアは、各設問の回答について、たくさん知っている=10 点、少しは知っている=5 点、ほとんど知らない =0点により計算し、福岡=100としたときの指数として表示。

【ヒアリング調査結果(要約・抜粋)】

- ✓ 水辺は都市圏レベルで見ても強み。都市圏で河川空間の特区を作って使いやすくし、ブランド化してはどうか。(まちづくり団体)
- ✓ 都心の中に、休める場所や子どもが遊べるような憩いの場所がない。 (開発事業者)
- ✓ 広島の魅力を高めるために、都心に公園やゆとり空間が少ないというところは改善していく必要があるのではないか。(開発事業者)

④ 公共交通ネットワークやウォーカビリティ*

(※地域の歩きやすさ、徒歩での生活のしやすさ)

- コロナ禍により公共交通の利用が減少しており、公共交通に対し、「早さ」や「安さ」とと もに「ゆとり」を求める人が多くなっている。
- 事業所の立地環境として、広域的な交通の結節性やシームレスな乗換機能、都心の公共交通の利便性やウォーカビリティが重要視されているが、広島都市圏におけるこれらの評価は低い。

【アンケート調査結果(抜粋)】

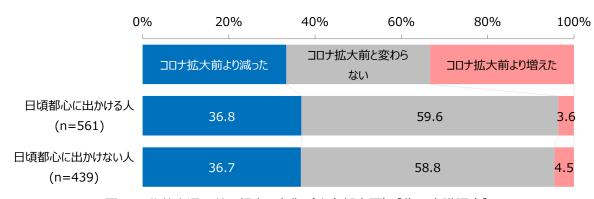


図 17 公共交通の利用頻度の変化(広島都市圏)【住民意識調査】

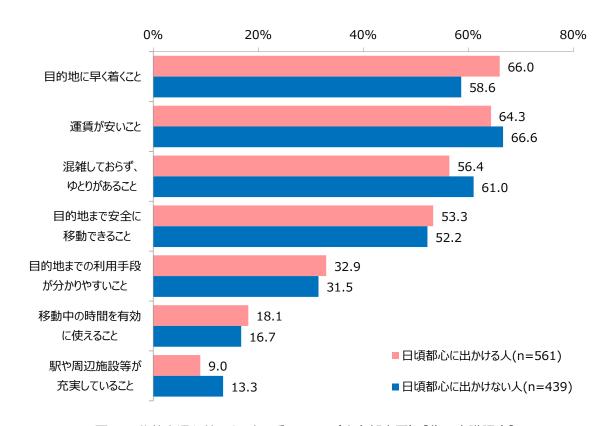


図 18 公共交通を利用する上で重要なこと(広島都市圏)【住民意識調査】

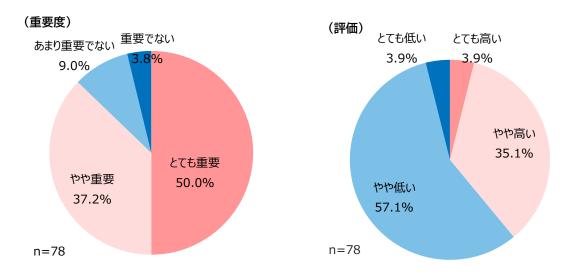


図 19 広域的な交通結節性やシームレスな乗換機能の重要度と評価(都心に立地する事業所)【事業所調査】

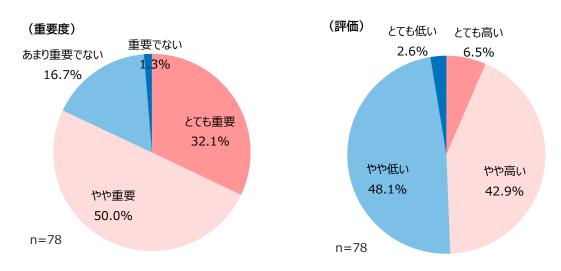


図 20 働く者にも居心地がよい、都心のウォーカビリティの重要度と評価(都心に立地する事業所)【事業所調査】

【ヒアリング調査結果(要約・抜粋)】

- ✓ 公共交通はコロナ前には戻らないのではないか。移動することが目的になるようなものを作っていくことが必要。移動しやすさだけでなく、賑わいなどもセットで考える必要がある。(交通事業者)
- ✓ 交通がネックとなって移動しないということがないようにオールインワンでインセンティブを与える新しい仕組みが 必要。(交通事業者)

(2)課題整理

(1)の現状分析を踏まえ、広島都市圏における課題を整理すると、以下のような点が挙げられる。

① コロナ禍による日常生活圏に対するニーズや役割の変化

- コロナ禍を経た社会環境の変化により生活重視の傾向が強まっており、住むことが中心であった日常生活圏における活動ニーズや求められる役割が変化している。これにより、働く場と住む場の融合や、居住地周辺における多様な都市機能の集積が進む可能性がある。
- また、コロナ禍を契機に拡大した在宅勤務は、生産性の向上やワークライフバランスの向上など、働き方改革にもつながる側面があることから、今後も一定程度定着することが見込まれ、居住地に左右されず仕事ができることで、居住地選択性の向上につながる可能性がある。
- こうした変化を踏まえ、広島都市圏においても、周辺都市や周辺地域における拠点性や定住人口を維持するため、日常生活圏における都市機能の強化が求められる。

② 都心における人を惹き付ける魅力の不足

- 広島都市圏においては、中心都市である広島市においても人口の流出が拡大しており、人口のダム効果が十分に発揮されていない状況にある。こうした背景として、多様性や交流、自己実現性など、都市圏内外の人を惹き付ける都心の魅力が不足していることが指摘できる。
- また、生活様式の変化に伴い、「ゆとり」など都市における寛容性の高さが求められる中で、 広島市は、豊かな自然環境を有する一方で、こうした環境を活用するための都市空間が少 なく、強みとして活かせていない。
- 都市活動のオンライン化やリモート化が進む中にあっても、リアルな交流や体験の重要性 を認識する人は多く、都心においては、オンラインでは代替でない体験や、そこでしか得 られない経験の提供が求められている。
- このような現状と都心に求められるニーズを踏まえ、広島市においては、広島らしさを活かした、多様な人を惹き付けることのできる魅力の創出・向上が求められる。

③ 公共交通や徒歩での移動利便性の低さ

- シームレスな広域交通ネットワークや、都心における公共交通の利便性・ウォーカビリティ等が重要視されている一方で、広島都市圏においては、こうした移動環境に対する評価が低い。
- また、コロナ禍により公共交通の利用が減少しており、今後も日常生活圏の役割強化やリモート化の進展により外出機会が減少し、周辺都市・周辺地域から都心への人流がさらに減少することが懸念される。
- このような現状を踏まえ、都市圏としての拠点性を維持するために、周辺都市・周辺地域 から都心への移動や、都心内の移動における利便性の向上が求められる。

5. 今後の都市圏づくりの方向性

- コロナ禍を契機とした生活を重視する傾向の強まりや、デジタル化・リモート化のさらなる進展により、都市圏における機能の分散や日常生活圏における機能強化が求められるようになっている。
- 同時に、意識や価値観の変化が進む中で、人中心のまちづくりを考えることが必要となっており、都市圏においても「幸福感(Well-being)」の向上による生活の満足度の向上、寛容性の高さや居心地のよさといった時代に即した、新たな価値の創出が求められている。
- このように、ポストコロナ時代に向けて、求められる都市圏のあり方も変化していることから、「広島広域都市圏発展ビジョン」に掲げる将来像「誰もが"住み続けたい""住んでみたい"広島広域都市圏」を踏まえ、今後の都市圏づくりの方向性を以下のように設定する。

【都市圏づくりの方向性】

多様な暮らし方・働き方を実現する、「広島らしさ」を活かした都市圏の形成

【活かすべき「広島らしさ」】

◎都市圏の特性

▶ 大都市圏との時間距離が近く、多様な都市機能が集積する広島市を中心に、個性豊かな周辺都市や周辺地域が、瀬戸内海や中国山地などの恵まれた自然環境の中に分散する都市圏構造

◎広島市都心の特性

- ▶ 100 万人を超える人口集積や都市的な機能集積を背景とした、中国地域におけるビジネスの中心地としての拠点性
- ➤ 国際平和文化都市として世界的に知名度が高く、多くの観光客が国内外から訪れる 国内有数の観光地としての魅力
- ▶ 路面電車や自転車を利用し、環境に配慮した暮らしができるコンパクトな市街地と、瀬戸内海に面し、川や緑地などの景観・自然を感じることができる美しい都市環境

【具体的な都市圏のイメージ】

- ▶ 周辺都市では、広島市都心を大都市圏とのハブとすることで働きながら暮らすことのできる日常生活圏が形成され、居住地として選ぶ人が増えている。
- ▶ 広島市都心では、都市機能と自然環境のバランスが取れた、寛容性の高さと居心地のよさを感じられる都心が形成され、多層的な交流により新たな価値を生み出している。
- ➤ このような都市圏内での役割分担により、広島の個性を活かした魅力あふれる都市圏が形成され、そこに暮らす人が「幸福感 (Well-being)」や「シビックプライド」を感じている。

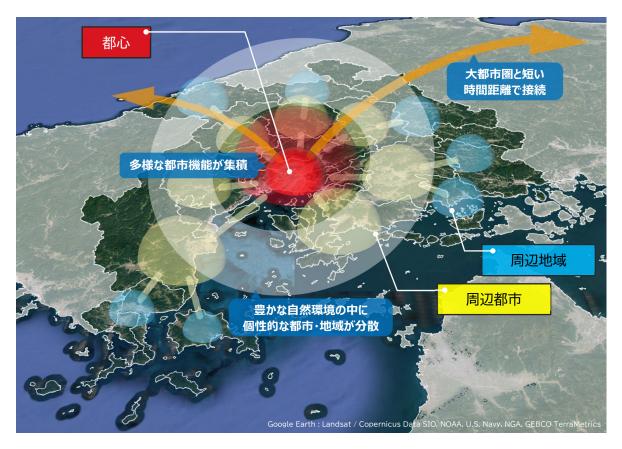


図 21 広島都市圏の特性

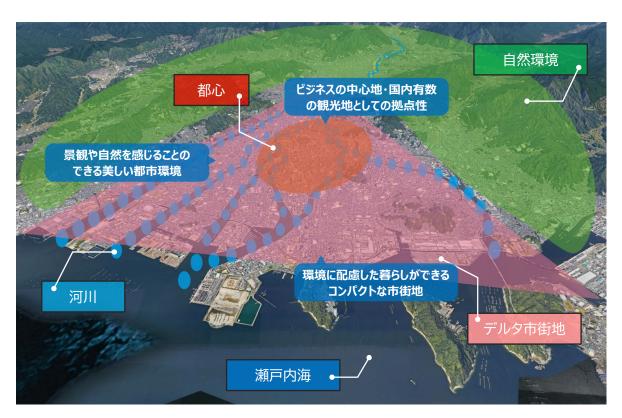


図 22 広島市都心の特性

新たな都市圏づくりに向け、具体的には以下の3つの方向性に沿って、方策・取組を推進する必要がある。

方向性1 都心と連担し、周辺都市・地域でも働き・暮らせる都市圏構造の構築

- オンライン・リモートワーク等の活用や都心をハブとし、大都市圏等ともつながることのできる働き方や暮らし方ができる生活圏として、周辺都市や周辺地域等の居住地としての選択性を高め、都市圏全体で定住人口の獲得・維持を目指す。
- このため、周辺都市や周辺地域等において、働く場、趣味・娯楽などの日常的な活動の場、 交流の場など、これまで主に都心が担ってきた様々な用途や機能の一部を整備し、これら の機能と居住機能が融合した、用途混在型の生活圏の形成を図る。

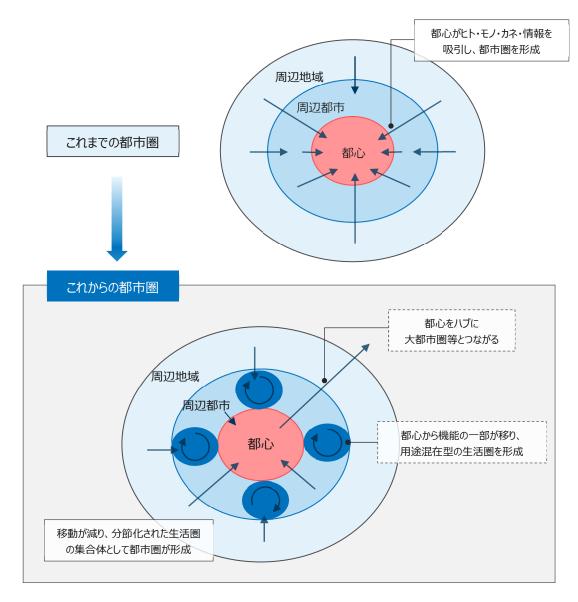


図 23 新しい都市圏形成のイメージ

方向性 2 リアルな体験と多様な交流を提供し、居心地の良い都心づくり

- 広島市においては、圏域内のみならず、国内外からも多様な人を惹き付けることのできる 都心づくりにより、広島都市圏全体の人口ダム効果の向上を目指す。
- このため、オンラインやリモートでは代替できない、そこでしか得られない体験や、多層的な交流機会を提供するなど、利便性や経済性だけでない、都心の新たな価値を創出するとともに、自然環境や美しい都市景観など広島の個性や特徴を活かし、寛容性が高く、居心地のよい都市空間を創出する。
- また、こうした都心の価値を持続的に高めるためには、官民連携によるまちづくりが必要であり、まちづくりを支えるエリアマネジメント団体等の取組や、まちづくりに関わる人材の発掘や育成を促進する。

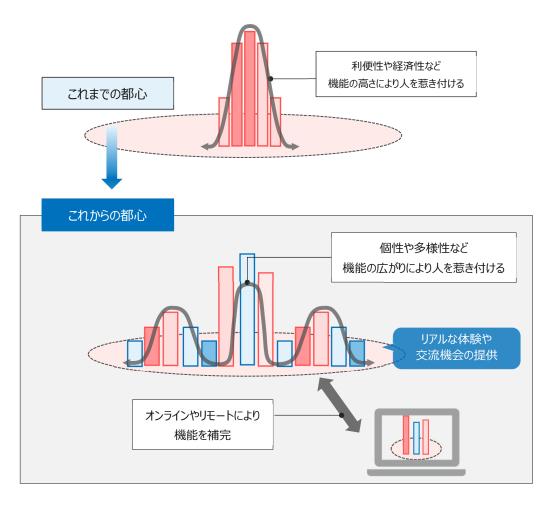


図 24 多様な人を惹き付ける都心のイメージ

方向性3 都市圏の連担性と魅力を高めるモビリティの提供

- 方向性1・2に沿った具体的な方策や取組の効果をより高めるために、周辺都市等と都心をつなぐネットワークの強化による都市圏内の連担性の向上や、都心における移動環境の改善による様々な交流の活発化を目指す。
- このため、周辺都市等から都心への移動を促進するためのシームレスでゆとりのある公共 交通ネットワークを構築し、移動の利便性や楽しさを高めるとともに、都心において環境 にやさしく、気軽に利用しやすい多様な交通モードを組み合わせたウォーカビリティの向 上を図り、居心地がよく、歩いて楽しい都市空間を創出する。

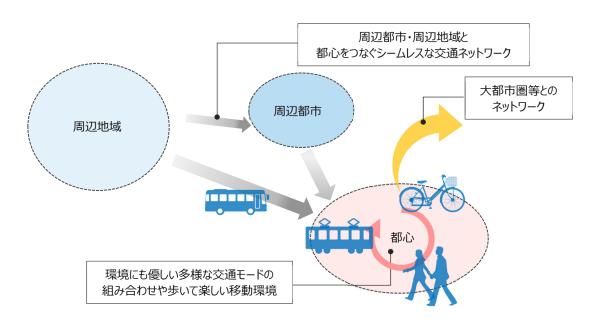


図 25 都市圏の連担性と魅力を高めるモビリティのイメージ

6. 方策と具体的な取組

(1) 都心と連担し、周辺都市・地域でも働き・暮らせる都市圏構造の構築

方策1 新たなワークスタイルの確立による広島らしさの発揮

- 広島都市圏は、周辺都市への事務所移転や出勤を要しないリモートワーク等の動きが見られる大都市圏と比べ、通勤時間が短いという特徴があることから、在宅勤務を含むリモートワークと出社しての勤務を1日の中で併用するなど、そのメリットを活かした、独自のワークスタイルが可能である。
- また、地方都市圏にあって、100万人を超える人口や多くの支店・出先機関等を要する広島市は、東京や大阪、福岡等の大都市圏の拠点をつなぐハブとして機能し得る環境にあることに加え、近隣には瀬戸内海や中国山地などの優れた自然環境を有している。このため、広島都市圏では、都心を拠点としつつ、自然環境等に優れた周辺都市や周辺地域においてサテライト勤務を行うなどの働き方も考えられる。
- このような、多様な働き方・暮らし方に対応しつつ、広島都市圏の特性を活かした、広島 らしいワークスタイルにより、周辺都市や周辺地域と都心の役割分担による新たな都市圏 モデルを構築する。

【具体的な取組】

① 広島らしいワークスタイルを可能とする多様な働き方の導入・促進

取組地域

▶ 都心、周辺都市・地域

- ➤ 民間事業者等は、生活拠点を中心とした働き方が可能となるよう、各事業者等の実情に応じて、コアタイムのないフレックスタイム制や在宅勤務を含むリモートワークをはじめとした多様な勤務体系の導入を推進することが望まれる。
- ▶ 国や各自治体は、民間事業者等による多様な勤務体系の導入を促進するため、制度導入のための各種費用に対する助成や補助、制度導入に向けた助言・コンサルティングなどの支援制度を拡充・創設する。

② 周辺都市等へのビジネス拠点の整備

取組地域

▶ 都心、周辺都市・地域

- ➤ 民間事業者等は、生活拠点において在宅勤務以外の多様なリモートワークが可能となるよう、周辺都市の拠点駅周辺等において、サテライトオフィス等のビジネス拠点の設置を推進することが望まれる。
- ➤ 各自治体は、民間事業者によるビジネス拠点の設置を促進するため、施設整備や宿泊 施設等を利用した試行的な取組等に対しての助成や補助等の支援を行う。また、東京・ 大阪・福岡等の大都市圏に立地する企業等に対するビジネス拠点の誘致に取り組む。

方策 2 居住地周辺におけるサードプレイス*の形成

(※自宅、学校、職場とは別に存在する、居心地の良い場所)

- コロナ禍により、これまで職場(セカンドプレイス)が担っていた働くための場を、自宅(ファーストプレイス)で受け入れることで在宅勤務が拡大した一方で、自宅の住宅環境や家庭環境は個別に異なることから、今後、在宅勤務を含むリモートワークが定着する中にあっては、居住地周辺に自宅・職場以外の「働く場」や「働くことを支援する場」づくりが求められる。
- また、居住地周辺で過ごす時間が増え、多様な活動ニーズが生じていることから、居住地 周辺における娯楽や交流、憩いの場づくりも求められる。
- このため、周辺都市等の居住地周辺において、ビジネスや娯楽、交流、憩いなど多様な都市活動を可能にする自宅・職場以外の拠点(サードプレイス)の形成を図り、日常生活圏における都市機能を強化する。

【具体的取組】

① 居住地周辺へのビジネス支援機能の整備

取組地域

▶ 周辺都市・地域

取組内容

- ➤ 民間事業者等は、生活拠点において在宅勤務以外の多様なリモートワークが可能となるよう、周辺都市の拠点駅周辺等において、コワーキング施設等のビジネス支援施設の整備を推進することが望まれる。
- ▶ 各自治体は、民間事業者によるビジネス支援施設の設置を促進するため、施設整備に対しての助成や補助等の支援に取り組む。

② 空き家、公園等を活用した都市サービスの提供

取組地域

▶ 周辺都市・地域

- ▶ 民間事業者等は、生活拠点における多様な活動を促進するため、住宅地における空き家や空き地のリノベーションによる拠点づくりを推進するとともに、公園・河川敷等の公共空間において、キッチンカーによるテイクアウト販売などの商業利用への活用を図ることが望まれる。
- ➤ 各自治体は、民間事業者による活動拠点づくりを促進するため、施設整備等に対して の助成・補助等の支援に取り組む。また、公共空間の管理者は、公園・河川敷等の活 用に対する規制緩和等の制度面での支援に取り組む。

(2) リアルな体験と多様な交流を提供し、居心地の良い都心づくり

方策1 都心における多層的な交流・体験の場の創出

- オンライン化・リモート化が進む一方で、リアルな体験や交流に対する一定のニーズがあり、様々な目的を持った人やバックグラウンドを持つ人が集まる都心では、リアルな交流が図られることによるコミュニティの形成やビジネスチャンスの創出、新たな価値創造などが期待される。
- また、消費のスタイルが、「モノ消費」から「コト消費」、さらには、今そこでしかできない体験を楽しむ「トキ消費」へと変化する中で、様々なモノや情報が集まる都心は、こうしたトキ消費を提供する場としての役割も期待される。
- このため、都市圏内外から多くの人が訪れたくなる都心を目指し、ワーカー・観光客・居住者・若者・外国人など、都心に関わる多様な人々が交流できる、多層型の交流の場を創出し、新たな価値創造を促進するとともに、都心に集積する資源を活用した、そこでしか得られない体験の創出を図る。

【具体的取組】

① 多層的な交流を促進する拠点機能の整備

取組地域

▶ 都心

取組内容

- ➤ 民間事業者等は、都心におけるビジネスの活性化を図るため、スタートアップ等のビジネスや産学官連携のための交流拠点の整備を推進するとともに、交流人口拡大のため、観光等を目的としたビジターのための拠点整備を推進することが望まれる。また、都心における多様性を高め、消費の活性化につながる都心居住を促進するために、若者・外国人等を対象とした賃貸住宅の供給等を推進することが望まれる。
- ➤ 広島市は、市街地再開発事業の促進などにより、都心における拠点づくりや都心居住 の促進を目的とした民間開発に対する財政的な支援に取り組む。

取組事例

イノベーション・ハブ・ひろしま Camps

- 広島県が設置する新たなビジネスや地域づくりに チャレンジする多様な人が集まるイノベーション 創出拠点。
- 人や資金・情報などが集積・結合して、新たなつながりとイノベーションを生み出される好環境を形成するための核となることを目指す。



(資料) 中国地域創造研究センター

② 広島の文化と魅力を発信し、トキ消費を誘発する賑わいの場づくり

取組地域

▶ 都心

取組内容

- ➤ 民間事業者等は、都心におけるトキ消費の創出を図るため、プロスポーツや川・緑地などの美しい景観・環境を活かした居心地の良い都市空間など、広島ならではの魅力を活かした体験・体感型の賑わいの場づくりを推進することが望まれる。
- ▶ また、国際平和文化都市としての知名度の高さを活かし、観光に訪れたビジターに対し、食・文化・賑わいなど、広島の文化と魅力の発信に取り組むことが望まれる。
- ➤ 公共空間の管理者は、民間事業者等による公共空間を活用した取組に対し、規制緩和 等の制度面での支援に取り組む。

取組事例

サッカースタジアム等整備事業

- 広島市は、広島県、広島商工会議所、サンフレッチェ広島、広島県サッカー協会との協力により、新サッカースタジアム等の整備を進めており、2024年の開業を予定している。
- 全国でも珍しい都心に立地する「街なかスタジアム」という特性を活かし、広場とスタジアムの複合化や多目的化、多機能化により、1年中賑わいのあるサッカースタジアムの実現を目指す。



(資料) 広島市

旧広島市民球場跡地整備等事業

- 広島市は、公募設置管理制度(Park-PFI)と指定管理者制度を活用した旧広島市民球場跡地の整備を進めており、2023 年 3 月末に供用を開始した。
- 都心の新たな賑わい拠点を創造する ことを目的に、年間を通じて多様なイ ベントが開催できる広場空間を中心 として、市民の憩いの場となる大屋根 等を有するオープンスペースや回遊 を促す8棟の木造店舗群を整備して いる。



(資料) 中国地域創造研究センター

方策2 水の都にふさわしい風景や川辺の賑わいづくり

- 「水の都ひろしま」構想に代表されるように、川は広島のアイデンティティであり、また、 太田川水系や瀬戸内海とのつながりで捉えると、国内外に誇れる、広島都市圏全体の貴重 な資源でもある。
- このため、河川空間の環境整備や河川空間を活用した多様な活動・取組を促進することにより、生活や遊び、憩いなど日常生活の中に川がある広島らしい風景や川辺の賑わいを創出し、広島都市圏の個性と魅力の発揮を図る。

【具体的取組】

① 河川空間の環境整備

取組地域

▶ 都心、周辺都市・地域

取組内容

▶ 各河川管理者は、川を活用した取組の効果を高めるため、浚渫等による河川環境の改善や雁木の再整備等の護岸の改修、河岸緑地の整備など、河川空間の環境整備に取り組む。

② 河川空間の利活用の促進

取組地域

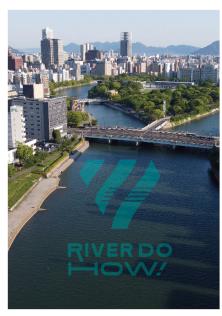
▶ 都心、周辺都市・地域

- ➤ 民間事業者は、広島都市圏における川の魅力を高めるため、広島市内の河川敷をはじめ、太田川水系や瀬戸内海など流域一帯を活用した多様な取組やイベントを推進するとともに、川を活用した交流を促進するため、水上タクシーなどの水上交通の充実に取り組むことが望まれる。
- ▶ 各河川管理者は、民間事業者による河川区域の自由な活用を促進するため、河川法に基づく河川敷利用に関する規制緩和や河川占用料の免除などが受けられる特区指定を行う等の制度面での支援に取り組む。

取組事例

RIVER DO!基町川辺コンソーシアム

- コロナ禍において基町環境護岸で社会実験として 実施されたパブリックスペースのオープン化に参 加した民間事業者や NPO が中心となり結成され た団体であり、「歴史を振り返る」「川辺と近づこ う」「環境について考えよう」をコンセプトに、川 辺を活用したイベントやワークショップに取り組 んでいる。
- 中心市街地を流れる太田川を民間主体で最大限に活用し、水辺空間の魅力を発信していくことで、 さらなる「水の都ひろしま」の空間創出に貢献し、 全国の河川空間オープン化の道標になることを目 指している。



(資料) RIVER DO!基町川辺コンソーシアム

広島駅周辺地区の水辺空間の賑わいづくり(広島駅周辺地区まちづくり協議会)

- 広島駅周辺地区の企業・団体により構成される「広島駅周辺地区まちづくり協議会」では、猿猴川水辺空間の包括占用主体として、河川管理者(広島県)から河川敷地の占用許可を受け、水辺空間の賑わいづくりに取り組んでいる。
- ▼エリア内の2つの広場で、水辺空間 活用社会実験の実施やライトアップ 等の環境整備を実施し、将来的なマ ーケットスペースとしての活用や収 益事業化を目指している。



(資料) 広島駅周辺地区まちづくり協議会

方策3 都心の面的な魅力を高めるエリアマネジメントの推進

- 都心におけるエリアの価値を高め、持続的な活性化を図るためには、公共と連携した民間 主体のまちづくりを推進することが求められる。
- このため、公共による支援の下で、都心におけるエリアマネジメント団体やまちづくり団 体等による活動を促進することにより、都心全体の価値の維持・向上を図る。
- また、エリアマネジメント団体やまちづくり団体による持続的な活動のために、まちづくりに関わる人材の育成を促進するとともに、自らまちに関わることによるシビックプライドの醸成を図り、都心の魅力の発信につなげる。

【具体的取組】

① 官民連携まちづくりの推進

取組地域

▶ 都心

取組内容

- ➤ 民間事業者等は、都心における各エリアの価値を高めるため、既存のエリアマネジメント団体等による取組や新たな団体の組成を推進する。また、公共とエリアマネジメント団体等の中間に位置するプラットフォームである「広島都心会議」によるまちづくりの調整・支援機能の充実を図ることが望まれる。
- ▶ 広島県及び広島市は、エリアマネジメント団体等による持続的なまちづくり活動を支えるため、様々な活動や団体に対する助成・補助等の財政的な支援や、エリアマネジメント団体等による社会実験の実施に対する規制緩和等の制度面での支援に取り組む。

取組事例

カミハチキテル-HEART OF HIROSHIMA-

- 民間企業を中心に、行政、大学など、広島都心に関わる様々な団体が参画する官民連携のまちづくりプラットフォーム。
- 広島市都心部のカミハチエリア(紙屋町・八丁堀地区)における都市開発プロジェクトが「個別」最適ではなく、「エリア」最適に向けた指針を示し、都心全体をリノベーションするための方向性を検討・実現化することを目的に、道路空間を活用した社会実験等に取り組んでいる。



(資料) カミハチキテルホームページ

広島都心会議

- まちづくりに関わる様々な関係者と連携し、一体となって継続的にまちづくりを推進 し、広島のまちづくりへの関心を高めるとともに、エリアの価値や魅力を将来にわた って持続的に向上させていくことを目指すプラットフォーム。
- 地域のエリアマネジメント団体と行政の中間に位置するプラットフォームとして、まちづくりの調整・支援やエリアマネジメント団体等とのリレーションの構築等に取り組んでいる。



(資料) 広島都心会議

② まちづくりの担い手育成を促進する取組の強化

取組地域

▶ 都心

取組内容

- ➤ 民間事業者等は、エリアマネジメント団体等による持続的なまちづくりを可能とする ため、大学との連携による学生を取り込んだ活動の推進やまちづくりに関わる多様な 人たちの交流の場づくりなど、まちづくりの担い手を発掘・育成するための活動に取 り組むことが望まれる。
- ➤ 広島県及び広島市は、エリアマネジメント団体等による担い手の発掘・育成を支える ため、様々な活動に対する助成・補助等の財政的な支援を行うとともに、まちづくり に関わる人たちの交流の場となる拠点整備に取り組む。

取組事例

Port.cloud (ポクラ)

- 広島市からの委託事業により広島商工会議所ビル内に設置されている、広島都心のま ちづくりをサポートするワーキングスペース。
- コワーキングスペースやミーティングルームの運営とともに、広島市都心のまちづくり活動やイベントに関する情報の発信・拡散、まちづくりに関わる個人・団体・企業の交流、まちづくりに関するセミナーやイベントの開催などに取り組んでいる。



(資料) Port.cloud ホームページ

地域の元気応援プロジェクト(広島大学)

- 広島大学の学術的な蓄積や教員・学生等の力を活用し、地域社会が直面する課題の解
 - 決や地域の活性化のために貢献すること を目的とした、広島大学の地域貢献事業。
- 地域団体から広島大学に対して提案を行い、教員・学生との協議の上で、調査・研究活動や実践活動に取り組んでおり、2022年には、呉市・中央公園の将来ビジョン(案)の作成を目的に学生と地域の協働による実証実験を行った。



(資料) 中国地域創造研究センター

(3) 都市圏の連担性と魅力を高めるモビリティの提供

方策1 都市圏内の移動を促進するモビリティサービスの充実

- 在宅勤務の定着や日常生活のオンライン化・リモート化が進み、都心への外出回数が減少 している中で、都市圏としての拠点性を維持するためには、都市圏内の移動を促進する必 要がある。
- 一方で、コロナ禍による意識や価値観の変化により、移動に対するニーズも変化してきており、モビリティサービスには、これまでのサービス水準以外の移動価値の創出が求められている。
- このため、交通ネットワークの強化や公共交通の利用しやすさ、分かりやすさの向上など、 都市圏内のモビリティサービスの充実を図り、都心と周辺都市等との移動が活発で、拠点 性のある都市圏形成を目指す。

【具体的取組】

① 移動の利便性を高める交通ネットワークの強化

取組地域

▶ 都心、周辺都市・地域

取組内容

- ➤ 交通事業者等は、交通の利便性を高め、移動しやすさを向上するため、路線バスにおける幹線の BRT 化や郊外低利用区間のフィーダー化、鉄道とバスの結節機能の強化など公共交通ネットワークの強化に取り組むことが望まれる。
- ➤ 国や各自治体は、交通事業者等による公共交通ネットワーク強化のための取組を促進する制度の充実や助成・補助等の支援に取り組む。また、都市圏内の移動の基盤となる高速道路ネットワークの整備に取り組む。

② 公共交通の利用を促進するモビリティサービスの導入

取組地域

▶ 都心、周辺都市・地域

- ➤ 交通事業者等は、新たな移動価値の創出を図るため、MaaS や完全ゾーン運賃制度の 導入、公共交通利用者へのインセンティブの導入など、公共交通の利用を促進するモ ビリティサービスの導入・充実に取り組むことが望まれる。
- ➤ 国や各自治体は、交通事業者等による新たなモビリティサービスの導入を促進する制度の充実や助成・補助等の支援に取り組む。

方策2 多様な交通モードによる都心のウォーカビリティ向上

- 都心の魅力を高め、出かけたくなるまちづくりのためには、居心地がよく、歩いて楽しい 都市空間の形成が必要であり、都心におけるウォーカビリティの向上が求められている。
- こうした中で、広島市の都心は、コンパクトな市街地の中に都市機能が集積し、環境にやさしく、気軽に利用しやすい路面電車や自転車による移動がしやすい都市環境にあることから、こうした都心内の移動に便利な交通モードと徒歩を組み合わせることにより、広島市の特性に応じたウォーカビリティの向上が期待できる。
- このため、都心において、歩きやすい歩行者空間の整備とともに、路面電車、シェアサイクル等の都市型モビリティを活用するなど、多様な交通モードを組み合わせたウォーカビリティの向上を図り、回遊性が高く、出かけたくなる都心を目指す。

【具体的取組】

① 居心地がよく、歩いて楽しい都市空間の整備

取組地域

▶ 都心

取組内容

- ➤ 民間事業者等は、都心のウォーカビリティを高めるため、歩行者利便増進道路制度(ほこみち制度)やまちなかウォーカブル推進事業等の制度を活用し、居心地がよく、歩きたくなる歩行者環境の整備を推進することが望まれる。
- ▶ 広島市は、民間事業者等による歩行者環境の整備を促進するため、国の制度活用における手続きや調整の円滑化、支援制度の拡充等の支援に取り組む。また、歩いて楽しい道路空間づくりのため、相生通りにおけるトランジットパークの整備等の歩行環境の整備に取り組む。

② 都心型モビリティの活用促進

取組地域

▶ 都心

- ➤ 民間事業者等は、マイカー通勤の抑制など公共交通等の利用促進に取り組む。また、 シェアサイクルポートの拡大や電動キックボードなど新たなモビリティサービスへの 参入など、都市型モビリティの導入・活用を推進することが望まれる。
- ➤ 広島市は、民間事業者等による都市型モビリティの導入・活用を促進するため、シェアリングモビリティサービスの導入や公共空間におけるポート設置に対する規制緩和 や助成、補助等の支援に取り組む。

取組事例

広島市シェアサイクル「ぴーすくる」

- 広島市中心部に設置したサイクルポートで、自由にシェアサイクルの貸出返却ができるシステム。
- 当初は観光振興や地域の活性化を目的 に供用開始したが、市民の日常生活の移 動手段としても利用されていることか ら、商業施設へのサイクルポートの新設 等により、市民の日常利用も促進しなが ら事業を実施している。



(資料) 中国地域創造研究センター

【方策と取組の体系】

様

な

暮

5

方

働

き

方

を

実

現

す

る

広

島

5

取組の方向性

取組の方策

方向性 1 : 都心と連担し、周辺都市・地域でも働き・暮らせる都市圏 構造の構築

方策1:新たなワークスタイルの確立による広島らしさの発揮

1

(2)

1

2

1

(2)

1

2

1

2

1

2

1

2

▶ 多様な暮らし方・働き方に対応しつつ、通勤時間が短く、優れた自然環境を有する広島都市圏の特性を活かした、広島らしいワークスタイルにより、周辺都市や周辺地域と都心の役割分担による新たな都市圏モデルを構築。

方策2:居住地周辺におけるサードプレイスの形成

▶ 周辺都市等の居住地周辺において、ビジネスや娯楽、 交流、憩いなど多様な都市活動を可能にする自宅・職 場以外の拠点(サードプレイス)の整備を図り、日常 生活圏における都市機能を強化。

方向性2: リアルな体験と多様な交流を 提供し、居心地の良い都心づくり

➤ 圏域内のみならず、国内 外からも多様な人を惹む 付けることのできる都市 づくりにより、広島都市 圏全体の人口ダム効果の 向上を目指す。

方策1:都心における多層的な交流・体験の場の創出

▶ ワーカー・観光客・居住者・若者・外国人など、都心に関わる多様な人々が交流できる、多層型の交流の場を創出し、新たな価値創造を促進するとともに、都心に集積する資源を活用した、そこでしか得られない体験を創出。

方策2:水の都にふさわしい風景や川辺の賑わいづくり

▶ 河川空間の環境整備や河川空間を活用した多様な活動の促進により、生活や遊び、憩いなど日常生活の中に川がある広島らしい風景や川辺の賑わいを創出し、広島都市圏の個性と魅力を発揮。

方策3:都心の面的な魅力を高めるエリアマネジメントの推進

- ➤ エリアマネジメント団体等の活動を支援・促進し、都 心全体の価値を維持・向上。
- ➤ エリアマネジメント団体等の持続的な活動のために、 まちづくりに関わる人材の育成を促進。

方向性3: 都市圏の連担性と魅力を 高めるモビリティの提供

➤ 周辺都市等と中心都市を つなぐネットワークの強 化による都市圏内の連担 性の向上や、中心都市に おける移動環境の改善に よる様々な交流の活発化 を目指す。

方策1:都市圏内の移動を促進するモビリティサービスの充実

▶ 交通ネットワークの強化や公共交通の利用しやすさ、 分かりやすさの向上など、都市圏内のモビリティサー ビスの充実により、都心と周辺都市等との移動が活発 で、拠点性のある都市圏を形成。

方策2:多様な交通モードによる都心のウォーカビリティ向上

▶ 都心における歩きやすい歩行者空間の整備や路面電車・シェアサイクル等の都市型モビリティの活用により、多様な交通モードを組み合わせたウォーカビリティを高め、回遊性が高く、出かけたくなる都市空間を形成。

りさ」を活かした都市圏の形成

具体的な取組内容

広島らしいワークスタイルを可能とする多様な働き方の導入・促進<都心、周辺都市・地域>

民間: コアタイムのないフレックスタイム制や在宅勤務を含むリモートワークをはじめとした多様な勤務体系の導入 行政: 各種費用に対する助成・補助、助言・コンサルティングなどの支援制度の拡充・創設[国、各県・市町]

周辺都市等へのビジネス拠点の整備<都心、周辺都市・地域>

民間:周辺都市の拠点駅周辺等におけるサテライトオフィス等のビジネス拠点の設置

行政:拠点設置や試行的取組への助成・補助、大都市圏に立地する企業等に対するビジネス拠点の誘致[各県・市町]

居住地周辺へのビジネス支援機能の整備<周辺都市・地域>

民間:周辺都市の拠点駅周辺におけるコワーキング施設等のビジネス支援施設の整備

行政:施設整備への助成・補助 [各県・市町]

空き家、公園等を活用した都市サービスの提供<周辺都市・地域>

民間:住宅地における空き家や空き地のリノベーションによる拠点づくり、公園・河川敷等の商業利用への活用

行政:施設整備への助成・補助、公園・河川敷等の活用に対する規制緩和 [各県・市町]

多層的な交流を促進する拠点機能の整備<都心>

民間:スタートアップ等のビジネスや産学官連携のための交流拠点の整備、観光等を目的としたビジターのための拠点

整備、若者・外国人等を対象とした賃貸住宅の供給

行政:都心における拠点づくりや都心居住の促進を目的とした民間開発に対する財政的な支援[広島県・広島市等]

広島の文化と魅力を発信し、トキ消費を誘発する賑わいの場づくり<都心>

民間:プロスポーツ等の魅力を活かした体験・体感型の賑わいの場づくり、ビジターに対する食・文化等の魅力の発信

行政:公共空間等の活用に対する規制緩和 [広島県・広島市等]

河川空間の環境整備 <都心、周辺都市・地域>

行政:河川環境の改善や護岸の改修、河岸緑地の整備など河川空間の環境整備[各河川管理者]

河川空間の利活用の促進<都心、周辺都市・地域>

民間:河川敷等を活用した多様な多様な取組やイベントの推進、水上タクシーなどの水上交通の充実

行政:河川活用特区指定等による活用支援(河川法に関わる規制緩和、占用料免除等)[各河川管理者]

官民連携まちづくりの推進<都心>

民間:既存団体等による取組や新たな団体の組成の推進、広島都心会議によるまちづくりの調整・支援機能の充実

行政:活動への助成・補助、社会実験等に対する規制緩和等の支援[広島県・広島市等]

まちづくりの担い手育成を促進する取組の強化<都心>

民間:まちづくり団体等による担い手の発掘・育成の推進

行政:活動への助成・補助金、まちづくり団体の交流拠点の整備[広島県・広島市等]

移動の利便性を高める交通ネットワークの強化〈都心、周辺都市・地域〉

民間:路線バス幹線のBRT化や郊外低利用区間のフィーダー化、鉄道とバスの結節機能の強化

行政:交通事業者に対する助成・補助、高速道路ネットワークの整備 [国、各県・市町]

公共交通の利用を促進するモビリティサービスの導入<都心、周辺都市・地域>

民間: MaaSや完全ゾーン運賃制度の導入、公共交通利用者へのインセンティブの導入

行政:交通事業者等による新たなモビリティサービス導入を促進する制度の充実や助成・補助 [国、各県・市町]

居心地がよく、歩いて楽しい都市空間の整備<都心>

民間:ほこみち制度やウォーカブル推進事業を活用した歩行者環境の整備

行政:制度活用を促進するための手続きの円滑化、制度の拡充、トランジットパークの整備等の歩行環境の整備[広島県・広島市等]

都心型モビリティの活用促進 <都心>

民間:事業所における公共交通等の利用促進、都市型モビリティの導入・活用

行政:シェアリングモビリティに対する規制緩和[広島県・広島市等]